



原野谷中学3年生が自衛隊を体験



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は、8月28日（水）から30日（金）の間、掛川市立原野谷中学校生徒の社会参加活動を支援した。

活動1日目は、袋井所の山下亮3等海曹が、陸・海・空自衛隊の任務や数多くの職種を紹介。また、自衛隊の団体行動には欠かせない気を付け、敬礼、回れ右といった基本動作の体験や、社会人として大切な身だしなみの一つであるネクタイの締め方、洋服のアイロンかけ、靴の磨き方を体験。生徒たちは時折笑い声も交えながら、社会生活の一部を知った様子だった。

2日目は、航空自衛隊御前崎分屯基地（御前崎市）を訪問。防空リーダー施設の見学のほか、隊員の宿舎においてベッドメイクに挑戦。パームクーヘンのような自衛隊式の毛布のたたみ方から、整理整頓の重要性を体得した。また、同分屯基地司令・松本安弘2等空佐が、自身の戦闘機パイロットとしての体験談を交えながら日本の大空を守るやりがいと誇りを直接生徒たちに伝えた。

3日目は、陸上自衛隊豊川駐屯地（愛知県豊橋市）を訪問。戦車やヘリコプターといった装備品の運用を垣間見たほか、午後からは82式指揮通信車に体験乗し、多くの隊員が一致団結することによって安全が保たれていることを学んだ。学習を終えた生徒たちは「自衛官は厳しいというイメージだったが、実際は優しい人がたくさんいて印象が変わりました」「自衛隊には多くの職種があり、そのひとつひとつにとても興味が湧きました」と笑顔で感想を話してくれた。

静岡地本は、今後も学校と積極的に交流を図り、自衛隊に対する認識と理解の向上に努めていく。

幹部候補生合格者が航空自衛隊を学ぶ



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は、9月12日（木）に防衛省市ヶ谷庁舎（東京都新宿区）で行われた「航空自衛隊幹部候補生合格者市ヶ谷研修」に県内合格者を引率した。

この研修は、将来勤務することが想定される本省において、航空自衛隊における幹部の役割や任務などについて理解を深めてもらうこと、航空自衛隊が開催したもので、まず航空幕僚監部募集班に勤務する赤田賢司2等空佐が、最初に入隊する奈良県にある幹部候補生学校の概要を紹介。特に団体生活を送る隊舎などの生活環境や、びっしり詰まった年間教育プランを丁寧に説明した。

続いて同総務部総務課渉外班長の中村秀明1等空佐が幹部自衛官のキャリアパスについて、当初はパイロットや管制官など各職種のスペシャリストとして勤務し、次第に組織のシエナリストとして計画立案や予算編成から他国との調整等に当たるとを、自らの経験を踏まえて紹介。入隊の心構えとして「肉体的・体力的に自分の限界に挑戦して今ある殻を破ろう」と奮起を促すとともに「皆さんと一緒にこの市ヶ谷で勤務できることを楽しみにしています」とのエールを送った。

次に、一般大学を卒業して幹部自衛官となり、現在最前線の部隊で活躍しているパイロット・要撃管制・会計・歯科といった職種の若手幹部との懇談が行われた。先輩自衛官から部下の安全管理の大変さや任務達成時の充実感といった経験談を聞くことができ、質疑応答も盛んに行われ、研修参加者は不安や疑問が解消できたようであった。

終了後の感想として「実際に防衛省の雰囲気に触れ、先輩方の生の声を聞いてやりがいを感じた。幹部自衛官になる決意が固まった」「幹部としてのキャリアパスは大企業となら変わらないものがあり、今後の参考となった」といった声を聞くことができた。

静岡地本は、今後も第一線で活躍する自衛官と直接話す機会を設け、生活環境や各職種を具体的に知ってもらい、合格者たちの疑問や不安を払拭できるように努めていく。

いよいよ自衛隊採用試験シーズンがスタート



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は、来春自衛隊への入隊・入校を目指す各種採用試験を、9月16日（月）の「航空学生第1次試験」を皮切りに本格的に開始した。

県内の航空学生第1次試験は、沼津市のブラサヴェルデ、静岡市のツインメッセ、浜松市の浜松合同庁舎で実施し、海上・航空自衛隊のパイロットを目指す多くの若人が、大空への憧れを胸に難関試験に臨んだ。

航空学生の試験は3次まであり、1次は数学・英語等の一般教養と航空機の操縦に関連する航空適性試験。2次は身体検査と面接と一般的な適性試験。3次は実際に練習機を飛ばして操縦を握る操縦適性試験に臨むこととなり、これが難関と言われるゆえんである。

第1次試験終了後の受験生からは「21日の一般曹候補生採用試験も受験するので、引き続き勉強します」という声もあり、自衛官を目指す若者たちの受験への情熱が感じられた。

静岡地本は今後、一般曹候補生や自衛官候補生をはじめ、防衛大学校、防衛医科大学校、高等工科大学等の採用試験を精力的に行っていくとともに、安心して受験に臨めるよう本部と募集案内所が総力を挙げて志願者のサポートに努めていく。